



工務店さん 百花繚乱

MOKUTOWN参加ビルダーさんを、取材を兼ねて少しずつ訪問しています。今月も2軒訪問させていただきましたが、今までと同様に大変前向きで個性的なビルダーさんでありました。

今後、新築住宅が10年位において87万戸(2021年)から70万戸位に減少する予測がされており、大手パワービルダーや、ハウスメーカーとの競争が更に激化すると思われます。これから地域ビルダーさんが独自性や強みを生かして、こだわりの住まいを建てていける仕組みを早急に整備すべきであると考えます。

地域ビルダーさんの強み

- ◆ 地域との密着性
- ◆ 住まいづくりに対する それぞれのこだわり、思い
- ◆ フットワークの軽さ、スピード
- ◆ ターゲット層を明確にした独自戦略

しかし、地域ビルダーさんの課題もまた、存在するかと思います。

- ◆ 住宅性能やデザイン性
- ◆ 価格競争力
- ◆ 土地とのマッチングの提案力
- ◆ 工程管理の合理化等

ビルダーさんごとに様々な課題があり、それぞれ違うポイントかと思われます。



私共販売店の役割として、究極の目指すレベルは

- ◆ 地域ビルダーさんごとの こだわりや強みを更に明確にして、お互いの協力の下で地域ビルダーさん独自の商品やシステムを一緒に創り上げて行き、又一緒にPRしていくこと。
- ◆ 世の中の変化(制度や、補助金、新商品等)をより早く地域ビルダーさんに届け、商品力や競争力を向上して頂くための努力。

その先に、競争力や独自性を有し大手に対しても決して引けをとらない強力な地域ビルダー群。それぞれが、独自性を誇り、また集まることでよりパワフルで集団的な存在力を示す。

これこそが、それぞれの色を強気に主張して咲き誇る高山植物の様な「ビルダーさん百花繚乱」の世界です。その多様性や個性に引かれ、消費者は必ず注目してくれる筈。是非こんな世界を皆様と共に実現したいと存じます。



M建設さん、命と健康を守る住まい

耐震性へのこだわりが半端なく、現在は集成材と金物を利用し、強度のみならず、スパンを飛ばした広い間取りを実現しています。住む人の健康に大変関心が高く、環境問題にも高い意識を持たれています。今後使用する集成材を外材から桧材に変更したいと、おっしゃっていました。

また、単に高気密・高断熱の数値だけにこだわらず、住む人の『こち良さ』を大切にしたいとも考えられています。

日本の山の問題も的確にとらえられており、現在の日本の山は人と同じ様に高齢化しており、このままでは山が死んで行くといった認識をされています。

CO2を一番吸収できるのは樹齢10~20年位の若木であり高齢樹になるほど吸収度が低下します。いわゆる(伐って、使って、植えて、育てる)このサイクルをしっかりと守ることが、循環型の山のあるべき姿です。さらに、家の中で地震の時に逃げ込めるシェルター的な部屋を作るべきとのご意見もありました。

今後、新しく取り組みたいビジネスモデルとして性能向上を伴うリフォームや法人の修繕リフォーム等のご意見をいただきました。

更に資材に対する新しいアイデアとして

- ◆ 桧製のバスユニット
 - ◆ ぎふの木利用のキッチン(パネル変更で独自性可能な)
 - ◆ 木製サッシ 等
- ぎふの木ネットへの、熱い思いもお聞きしました。



I建設さん コンセプトは安心な家づくり

中規模のビルダーさんで大変温和な話し振りですが、その内容には驚かされる点多々ございました。お父様が宮大工であり若くからその精神的なより所が養われたとお聞きしました。

つまり、
変えていけないこと …… 住まいづくりのこだわりや哲学

新しくすべきこと …… 新技術やデザイン

まさしく芭蕉の不易流行の考えそのもの。

更にびっくりした点は

- ◆ 女性比率50% … 女性活躍企業の認定
- ◆ ISO認定取得 … 標準仕様書の徹底による工程の合理化
- ◆ ムク材利用の耐震工法

お話しをお聞きする中で更にビックリする内容が

- ◆ 建った状況で1棟ごとの(起震機による)耐震検査
 - ◆ 受注前に4人位による設計コンペの利用
- 1棟ごとの手間が半端なくかかっています。

住まいづくりの優先ポイントは

デザインを先行させず、耐震性や人の動線 又 メンテナンスのしやすさを重要視する。
とことん考えられており、家は買う物でなく創り上げる物、世界でお施主様にとって1棟だけの家徹底したこだわり戦略です。

また、これからの方向性として、もし大地震に遭遇した場合倒壊しないことは当然として、目指す点は避難所に行かなくて自宅で過ごせるライフラインを実現できる住まいづくりを目指したいと話されました。

M建設さんや I建設さんに共通するのはデザインよりも、まず安全性

現在 エネルギーや脱炭素化への流れの中、忘れがちなのが地震等、災害への備え。
ぎふの木ネット会員さんの中には、将来に希望を抱き前向きに進もうとする方々が多数います。
皆様方とのパワーの結集で新しい波を起こそうではありませんか！ (ぎふの木ネットメルマガ 第42号より)



青の森の世界…その無限なる可能性

青の森の衝撃

かつてある1枚の画像を目にした時に、衝撃的な感覚を覚えました。「青色に染まった森」の画像です。森は緑色であるという認識を根底から否定する挑戦的な画像で、「夜明け前、漆黒の闇の世界から、明るい光の世界へ移行する間際のほんの一瞬の神秘的な静寂の世界」となります。それ以来、私の身の回りに急速に青色が増えていきました。「青の森」を名刺や会社案内やセミナー等の表紙に使用することになり、車やネクタイ、スーツ、カバン、果ては我が家のテーブルやクローゼットまで青が侵入しております。青の森に象徴させる木材の神秘に触れ、その無限なる可能性にトライしていきたいものです。



既成概念からの脱出

学生時代・白馬エリアにスキー旅行に行った時に「不思議な風景」を体験しました。朝、窓から見た景色は朝日の中で白馬岳がバラ色に染まる……モルゲンロート現象。雪山は白といった既成概念が覆させられました。

かつて、世界初の宇宙飛行士ガガーリンが、ボストーク1号で宇宙から地球を眺め、「地球は青かった」といった言葉で私達は改めて地球は「水の惑星である」といった認識を深めました。皆様と共に既成概念から脱出し、新たな目標にもチャレンジしたいと思えます。



追い風は脱炭素化……私達に何ができるのか

2020年日本政府が発表した「2050年カーボンニュートラル宣言」では2050年迄に脱炭素化を実現し温室効果ガスの排出を実質ゼロにする事を目標としています。

そして2030年には、2013年比46%の削減目標も表明されました。

2015年の「パリ協定」で世界の平均気温上昇を産業革命前と比較し2℃より低く抑え1.5℃に抑える努力を追求する事を目的としましたが、既に0.85℃上昇しており早ければ2030年には1.5℃の上昇に達する懸念も出ています。

脱炭素化投資について経産省では、今後10年で官民合わせて150兆円必要になるとの試算を出しており、地方も含め今後具体的な動きが加速されると思えます。

木材業界の役割

我々が、脱炭素化への取り組みの中で貢献できる点は、多数あると思います。

取り組み可能だと思われる点	具体策
木材のCO2吸収	カーボンクレジット 植林サイクル高速化 (伐って、使って、植えて育てる)
木材のCO2固定化	非住宅の木質化 オフィス木質化 等
CO2削減	外材から県産材へのシフト ZEH住宅の推進普及 省エネ改修 物流の合理化
化石燃料から再生エネルギーへ	太陽光や風力発電の普及拡大 等

一例ですが、木材業界や建設業界が中心となり他業界も巻き込み、脱炭素化への取り組みのリーダーシップをとっていくべきであると考えます。その過程で業界の活性化を図ることが可能となります。

そして木材のブランド化を

木材には大きく分けて

- ◆ 一般材(構造材、造作材等)
- ◆ 銘木 (高齢材・特殊材で、家具材、一枚板、突き板用等)
- ◆ チップ、燃料、梱包材(木質バイオマスや製紙用等)があります

岐阜には東農桧や長良杉のブランド材、そして日本中からの銘木の集散地としての市場が複数存在しています。又、木質バイオマス発電の稼働も増えてきそうです。

確かに山を守り、木材のブランド化をすすめる為には、コストを価格に転嫁しなければなりません。しかし、需要が伴わないプロダクトアウト的なサプライチェーンでは持続可能とはいえません。

やはり消費者に訴え、消費者が価値観を感じ満足度を高めるマーケットインの考え方・・・即ちデマンドチェーンの考え方こそが今必要かと思えます。

先日も、ある会合で私は日本の大径材の中で資源量も豊富な割に価値観が上昇してこないケヤキと杉の問題を提起し、それぞれプロジェクト化して需要開発する事でブランド化を図ろうと呼びかけました。そして、日本の銘木業界は、車業界にたとえるとトヨタでなくフェラーリを、バック・宝石等では(LVMH)モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトンの様な会社を目指すべきだと申し上げました。物作りへの思いやストーリーをストレートに伝えることで、人々はその価値観に共鳴しブランド形成につながっていきます。

日本で一番うまく木材を利用する県

岐阜は木の国山の国・・・木材資源については日本有数の資源県であり、製材工場数も約200となり、日本No.1です。是非この状況を更に進化発展させ、この資源を日本一うまく使いこなす木材業界の成長産業化と共にブランド化への移行こそが必要です。

目指すべきもの

脱炭素化への取り組みや、木材ブランド化へのチャレンジが、地方経済への波及効果を及ぼし地方創生への道筋につながります。

そしてすべての人々が健康で快適に暮らす為に我々の生業(なりわい)である木材は大きな存在となる筈です。

その為に、すべての空間を森に・・・

12/16 ぎふの木ネット協議会 特別フォーラムを開催しました

12月16日(金)に、岐阜グランドホテルにてぎふの木ネット協議会特別フォーラムを開催しました。特別フォーラムには、リアル・オンライン参加合わせて約130名もの方にご参加いただきました。ご出席くださった皆様におかれましては、誠にありがとうございました。

今回は「待ったなし『脱炭素化』そして『地方創生』へ 私たちに何ができるのか？」をテーマにし、最初にぎふの木ネット協議会事務局より各種イベントへの出展や会員様向けセミナーの開催、広報など2022年の実績報告と、木材プラットフォームなどの2023年の方針を発表しました。



続いて、岐阜県庁林政部県産材流通課から、新しく制定される「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」などについての発表をしました。

その後、株式会社ビズ・クリエイション代表取締役の初谷昌彦氏をお招きして特別セミナー「いよいよ住宅業界大変革 その問題点と成功への道筋は？」を行い、最後に協議会より各種ご提案・ご案内をして閉会となりました。

特別フォーラムの開会前や休憩時間中には、各メーカー10社によるぎふの木ネット対応商品や脱炭素化商材などの展示ブースが設けられ、そちらも大変盛況となりました。

ご参加下さった方からは、「特別セミナーの内容がとてもよかった」「様々な情報を知ることができ非常にタメになった」などのご感想をいただきました。



ぎふの木は、待っている

脱炭素化宣言

私たちは岐阜から脱炭素化に向けて、第一歩を踏み出します

DX (デジタルトランスフォーメーション) × GX (グリーン成長戦略)

MOKU TOWN

地方創生

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ぎふの木ネット協議会

今回、特別フォーラムに先立ちまして、2022年12月13日(火)の岐阜新聞にぎふの木ネット協議会の活動と、ぎふの木ネット協議会の「脱炭素化宣言」についての広告を掲載しました。

協議会の皆様(11/30現在)の会社名も記載いたしておりますので、広報活動などでお役立てくださいませ。

また、データとして必要な方は協議会までお問い合わせください。PDFをメールにてお送りいたします。

また、欠席された工務店様方につきましては順次、発表した内容について説明をさせていただきます。

ぎふの木ネット協議会では、これからも木材プラットフォームなどの事業を進めて参ります。

今後ともよろしくお願いたします。

次回の会員様向けセミナーは2023年2月に、講師は同じく初谷氏をお招きして開催する予定です。詳しい内容や日程につきましては1月以降追ってお知らせいたしますので、その際はぜひご参加ください。

岐阜県より 補助金情報

岐阜県による2種類の補助金につきまして、まだ枠が残っておりますので、ぜひご活用ください。

① ぎふの木で家づくり支援事業

2023年1月末までに検査済証と実績報告が必要となります。

② 住宅用県産材高騰対策緊急支援事業

2023年1月末までに補助金交付申請書の提出が必要となります。



詳しくは岐阜県のHP(QRコードよりご覧になれます)、もしくは岐阜県林政部県産材流通課までお問い合わせください



動画を撮影しました

11月に、美濃市の森林文化アカデミーにてぎふの木ネットの動画を撮影しました。
内容は、一般の方々に向けて日本の森が抱える問題や森の働きについて面白く、分かりやすく解説したものとなる予定です。



動画については完成次第、ぎふの木ネットHPやモクタウンにて告知をいたします。

これまでのセミナー動画を公開しています

ぎふの木ネット会員サイトにて、過去のセミナー配信の動画を公開しております。

会員サイトへは、ぎふの木ネットのトップページ右上の「会員サイトへ」から入れます(写真参照)

IDは gifunokinet
パスワードは gifunoki2019
となります。

セミナーはイベントの集客や広報についてなどが学べる内容となっております。集客のヒント取得や社内教育などにぜひ活用していただけたら幸いです。



得値情報、配信！

★得値情報★
配信！



ぎふの木ネット協議会の公式ラインの登録をお願いします。

協議会会員限定の得値情報・新商品情報・イベント情報などを配信します！！

会員の方への情報を募集します

会員の皆様へのご報告として、ぎふの木ネット通信を発行し(年6回程度)、協議会の活動報告などをお伝えしていきます。

今後は会員の皆様同士の情報共有を図るために、皆様からの貴重な情報を頂き、その情報を会員の皆様へ周知したいと考えております。

会員の皆様にお知らせしたい内容などありましたら、事務局までご連絡ください。

(チラシなどの印刷物をご提供いただければ、ぎふの木ネット通信の中に同封して会員の皆様にお送りします。)

ぎふの木ネット協議会事務局

岐阜県羽島郡岐南町みやまち1-3 ヤマガタヤ産業(株)本社内

TEL 058-271-3111